

「生駒市の教育課題について WS」

意見まとめ

基本方針

- ・基本方針の概念の定義付けをもっと明確にすれば、現場での方向性も一致しやすい

学校教育基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

- ・学び方を学ぶ学校づくり
- ・誰もが楽しい毎日を過ごせる学校づくり
- ・1人ひとりの子どもを大切にす
- ・すべての施策を子どもが主役として再定義し、教育の方向性を明確にする必要

「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

- ・更に機能するコミュニティスクールの推進
- ・地域コーディネーターの役割が重要であり、学校と地域の連携を強化する必要

ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

- ・楽しい授業づくり
- ・一斉授業から個別最適な学びや協同的な学びへの改善の遅れ、特に中学校における教員の授業観や指導観のアップデートの必要性。
- ・学校に関わる人々が対等な立場で考える体制を整える必要
- ・主体的で深い学びへの授業改善や個別の教育が行われていない
- ・教育の根本は問答にあると考え、主体的・対話的な学びが重要
- ・教育において本当に必要なことに焦点を当て、余分な業務を減らし、多様な学校や教育スタイルを共有することで魅力的な教育環境を作りたい
- ・授業改善を通じて主体的で対話的な学びを促す必要があり、児童生徒の参加意欲や学校への通学意欲の向上が期待される

多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

- ・多様かつ個別の対応が求められている
- ・特別支援学級の配置や教育活動の目的が共有されておらず、教員間の情報共有が不足
- ・子どもの居場所・学び支援室へのアクセスの問題、引きこもりへの支援、不登校という概念の扱い方に関する具体的な戦略や計画の欠如、画一的な価値観や学力観による子どもの苦境。
- ・異なるニーズを持つ子どもたちに対応する場所や人材の確保が必要であり、保護者への支援も重要

主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心身の育成

- ・子どもたちのチームづくり(孤立化させない、協働的な学びが大事、学年担任制)
- ・自己を大切にすることが他人や地域を大切にすることに繋がる
- ・「自分がなりたい自分」になれる土台を作る
- ・次の学校段階への入学や受験指導から脱却し、個々の特性に合わせた力を育成する必要

「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

- ・学校現場の再構築には、教育現場で働く大人の役割や業務内容、教育環境の再定義が必要
- ・学校や教師の仕事に整理が必要
- ・教職員に時間とゆとりを生み出し、学校教育の目的に立ち返るための対話の場をつくる
- ・教員の負担軽減や質の向上、人材との連携を全体的に進める必要
- ・教師の魅力を取り戻し、教育の質を高めるために、真に魅力ある学校教育を実践していきたい
- ・楽しい授業づくり
- ・働き方改革
- ・教員の話し合う場づくり
- ・学校改善担当指導主事
- ・管理職のチーム形成(いい雰囲気職員室づくり)
- ・それぞれの能力に頼りすぎない管理職研修
- ・先生をサポートするのが指導課の仕事
- ・教員のまずやってみる精神の育成(保守からの打破、担保が必要)
- ・先生が楽しいと多くのことが解決する(先生の希望を叶える)
- ・研修は伝えるだけでもいい(成人教育学、自分で選ぶ方が効果高い)
- ・義務教育内で(Well being)大人となるためにつけるべき力を明確にする
- ・授業改革、人材育成
- ・それぞれの分野で外しては行けないところはどこだろう。教員に提示していく時代
- ・教員を育てる
- ・教材研究を重視し教師が落ち着いて取り組める環境づくり
- ・教員は教科指導や学級経営に専念すべきであるが、他の業務が増えすぎているため、本来の仕事に時間を割けていない
- ・教員の働きやすい環境や業務負担の削減
- ・教職員と管理職が学ぶための時間や機会の提供
- ・必要な教員数が足りず、代わりに他の教員が業務を担当することになり、偏りが生じている
- ・県教委の講師候補者リストの不足、特休を取る教員への支援の必要性。
- ・教育委員会と学校・校長会の関係、対話の機会や場の創出。